

絶景の見える山城から歴史深いふもとの里へ

松阪市 阿坂城周辺

松阪市を見下ろす堀坂山系の北端、杵形山。その山頂には中世に伊勢国を治めた北畠氏ゆかりの山城跡があり、比較的手軽な登山路として、山歩きが好きな人々の人気スポットとなっています。また、裾野に広がる田園地帯には、神話に関わる神社や北畠家の菩提寺などが残り、この地域の歴史の深さをしのばせます。

今回の案内をお願いしたのは、松阪市にある「本居宣長記念館」の名譽館長で、この付近をよく歩くという吉田悦之さん。宣長を研究して40数年という碩学の第一人者です。まず山に登って城跡を見た後、ふもとの里を廻り、本居宣長がスケッチを残したという謎の塚も訪れる、吉田さんならではのコース。一部急峻な坂道もありますが、全体によく整備された歩きやすい道のりです。広く伊勢湾を見渡す絶景やのどかな田園風景、古代を思わせる神社の木立など、多様な風景と重層的な時代の物語に出合えます。取材・文：堀口裕世



浄眼寺
「浄眼寺は、文明10(14

浄眼寺門前の登山口からスタート

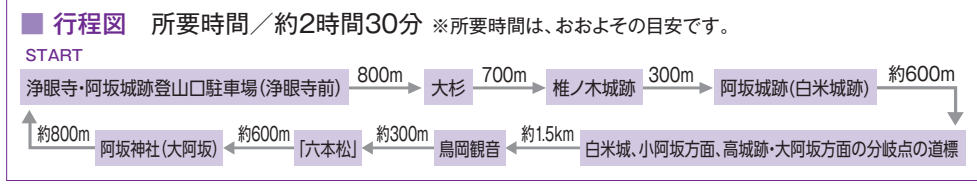
松阪市大阿坂町にある杵形山。この山頂をめざすにはいくつかのルートがありますが、今回は、浄眼寺前の阿坂城跡登山口駐車場を出発して、袖岡谷に沿う道から頂上の城跡をめざします。「阿坂城は、南北朝時代から戦国時代に伊勢国司であった北畠氏の城の一つで、本丸があった白米城とも呼ばれる南郭を中心に、北郭・椎ノ木城やふもとに城跡が残る枳城や高城はその出城です。ここ

78年に北畠政勝によって建てられました。広大な伽藍があったそうですが、永禄12(1569)年に、織田信長軍に攻め込まれ、焼失しました。現在のお堂は、宝暦年間(1751~1764)に建てられたもので、三重県の文化財に指定されている『無外逸方北畠政勝寿像』などもあります。単なる寺院ではなく、城の一部としての機能もあったのでしよう。

登山の安全を祈って、登山口へ。山に入っすぐは、道幅は広いのですがかなりの急勾配。道が細くなる付近からは少しなだらかな道になります。1町(109メートル)ごとの表示や、「頂上



谷底から伸びている大杉



一町ごとに表示が

まであと何キロ」などの案内板が立てられていますので、進度を確かめながら進めます。登山口から頂上までの中頃に、大杉という看板があり、矢印の指す方向に谷底からそびえる巨木があります。大杉を見て、薬王寺方面に向かう道との分岐点を過ぎ、さらに進むと、椎ノ木城跡(北郭)の切岸が見えます。急角度に切り立った大きな切岸です。



椎ノ木城跡の切岸は見上げる高さ



白米城跡(南郭)から地獄谷方向を見下ろす

山城跡から見る爽快なパノラマ

細長い北郭は上がれるようになって、前後には豎堀など砦ならではの造りが残っています。堀切のある道を通り、細い階段を上ると、阿坂城跡(白米城跡)



山頂にある石碑

(南郭)。標高312メートルの山頂です。ここは丸い広場に整えられ、大きな石碑があります。「応永22(1415)年、足利幕府軍に攻め込まれた北畠軍がここに籠城し、水を絶たれたのですが、白米を馬の背に掛けて水が足りていると見せかけ幕府軍を撤退させた」と江戸時代初期の『南方紀伝』に書かれています。その伝説から、ここは白米城と呼ばれているのです。石碑は大正10(1921)年にここを整備したときに立てられたものです。

ここからの眺望は遮る物のない爽快さ。天候がよければ、伊勢湾や知多半島が見渡せます。古の武士たちも、眼下に広がるパノラマを見ながら、戦の策を巡らせたのでしょうか。

宣長ゆかりの六本松へ



わかき水の位置を指す立札 分かれ道の道標

白米城跡を出て西方へしばらく進むと、白米城、小阿坂方面、高城跡・大阿坂方面と書かれた道標があります。今回は大阿坂方面に進み、桜谷を通って下山します。すぐそばに立札がある「銀明水」は、下の谷にあるわき水を示しているようで、「季節によって少し水が湧く程度です。神明水の伝承もありますが、今は分からなくなっています」とのこと。

階段状に整備された道を下り、沢を渡る小さな青い橋を三つ越ええると、やがて道は少し広くなり二股に分かれます。ここは右へ。伊勢自動車道の上を通る

の段差など周囲の雰囲気は変わっていないことが分かります。

神話ゆかりの神社へ



阿坂神社

田園風景の中を阿坂神社に戻ります。阿坂は『古事記』に、猿田彦神が亡くなったと記されている場所。ここには猿田彦神がお祀りされていて、長い参道に繋る巨木は、古代の森を思わせます。猿田彦神に手を合わせ、なだらかな上り坂を、出発点の浄眼寺をめざして歩きます。高城跡の森の横を通り、高速道路の下をくぐると、ゴールの浄眼寺まではもうすぐです。

*バスの本数の少ない時間帯がありますのでご注意ください。

問 一般社団法人 松阪市観光協会

TEL 0598-251-6565

三体の観音像がある鳥岡観音



通路を過ぎると、なだらかな丘陵地に畑が続く風景が広がります。

「鳥岡観音六本松」の道標に従って右へ行くと、三体の

観音像がお祀りされている鳥岡観音に出ます。「北畠家の重鎮で、阿坂城の主だった大宮入道含忍齋(？)1569(の墓所だったともいわれています)。

左手前方に見える、丸く木の茂った所が「六本松」。近づくくと四角く石で囲まれた場所に小さな石碑があり、数本の木が生えています。「ここは、一本の松から六本松と呼ばれたそうです。阿坂城での戦死者を葬ったなど色々な言い伝えがありますが、詳しいことは謎です。本居宣長の先祖の墓もここにあって、もういわれ、宣長も安永3(1774)年、



「六本松」



本居 宣長が描いた「六本松」※

45歳のときにこの地を訪ね、この場所を絵に描いています。中央の3つに分かれた古松が本居の祖・延連の墓だそうです。絵と見比べてみると、木々や石碑のようすは変わっていますが、横の畑と

※印の写真は取材先から提供していただきました